

小学校における札幌らしい交通環境学習推進事業

札幌らしい交通環境学習検討委員会、札幌市市民まちづくり局総合交通計画部都市交通課、一般社団法人北海道開発技術センター、株式会社アドバコム、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

背景・目的

公共交通を賢く使うことが、札幌の豊かな自然環境を維持するためにとても大切な役割を果たす。

→ 初等教育から効果的に学ばせるために、教材・授業プログラム等を開発し、札幌市内の小学校で広く実践されることを目指す。

札幌市の取り組みポイント

- MM教育を札幌市の小学校全体に拡大するには、出前講座形式では限界がある。
教諭主体の授業実践!
- 各学年でMM教育を実践することにより、効果はより確かなものになる。
各学年を対象に実施!
- 「過度な自動車利用を抑制・公共交通の利用拡大」を図る団体を連携を実施することで、より効果的・効率的に学校を支援可能になる。
関係機関の連携を重視!

研究事業の蓄積・教諭が主体となった授業の実践

実施時期	学校	学年	教科	担当教諭	授業内容
H23年度(3学期)	屯田小	5年生	社会	斉藤健一	暮らしを支える情報
H24年度(1学期)	手稲宮丘小	5年生	総合	牧野宣英	環境について考えよう
H24年度(2学期)	山の手南小	5年生	総合	栗原聡太郎	環境HOT COM
H24年度(2学期)	本通小	3年生	社会	河嶋一貴	もっと知りたいみんなのまち
H24年度(2学期)	屯田小	6年生	社会	斉藤健一	暮らしの中の政治
H25年度(1学期)	山の手南小	4年生	総合	佐野浩志	身近なバスと私たちの暮らし
H25年度(1学期)	山の手南小	6年生	社会	栗原聡太郎	暮らしの中の政治
H25年度(2学期)	福住小	3年生	社会	河原秀樹	わたしたちの市のようす
H25年度(2学期)	山崎南小	4年生	総合	高橋浩史	わたしたちのくらしと市電
H25年度(2学期)	本通小	4年生	総合	河嶋一貴	わたしたちのくらしと公共交通
H25年度(2学期)	屯田小	3年生	社会	斉藤健一	昔の道具とくらし
H25年度(2学期)	手稲宮丘小	6年生	社会	牧野宣英	暮らしの中の政治
H25年度(3学期)	三角山小	1年生	道徳	内藤広大	でんしゃのトリー



本プロジェクトの目標とそれに対応した実施結果

目標	実施・検討内容等
目標① 学習指導要領と連動した学習プログラムの開発	・教諭を主体とするワーキンググループを設置し、学習プログラムを検討・研究授業の蓄積 ↳ 2年生を除き、他学年において研究授業実践 ※3年以上は、各学年3回以上の実績 (1年生:1校・3年生:3校・4年生:3校・5年生:3校・6年生:3校)
目標② 1年生～6年生まで、各学年におけるMM教育の実施	・教諭が主体となった授業を実践 [平成23年度] 札幌市立屯田小学校:斉藤教諭 [平成24年度] 札幌市立手稲宮丘小学校:牧野教諭、札幌市立山の手南小学校:栗原教諭、札幌市立本通小学校:河嶋教諭、札幌市立屯田小学校:斉藤教諭、札幌市立山の手南小学校:佐野教諭、栗原教諭、札幌市立福住小学校:河原教諭、札幌市立山崎南小学校:高橋教諭、札幌市立本通小学校:河嶋教諭、札幌市立屯田小学校:斉藤教諭、札幌市立手稲宮丘小学校:牧野教諭、札幌市立三角山小学校:内藤教諭
目標③ 教諭が主体となった授業の実施	・指導案集の作成・副読本作成についての検討 ・webプラットフォームによる情報提供 ・教諭を対象とした「札幌らしい交通環境学習フォーラム」の開催
目標④ 札幌市内小学校へのMM教育の広がり	・協働体制の構築に向けた検討 ↳ こども環境情報誌「エコチル」と連携した札幌市の公共交通について考える作文コンクールを平成24・25年度に実施 交通事業者と連携した体験学習を実施 学識経験者・行政機関・関係団体・市民代表・交通事業者との連携体制は、次年度以降も継続
目標⑤ 関係団体等の連携体制の構築	

学習プログラムの開発

【目的】

- MM教育を小学校において教諭主体で実施
- MM教育を札幌市小学校全体に広める

【方法】

- 研究授業を数多く実践し、カリキュラム構築

【留意点】

- MM教育を広めるために、「小学校で実践しやすいカリキュラム」を構築

【指導案】



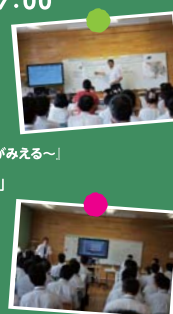
【児童用テキスト】



「札幌らしい交通環境学習フォーラム」開催

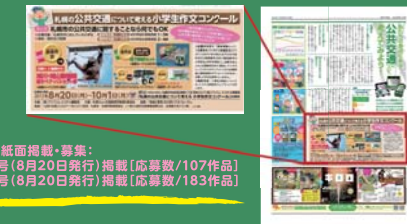
100名を超える参加者!

- 開催日時: 2013年7月4日(木) 13:30~17:00
- 対象: 札幌市内の小中学校教諭
- 場所: 札幌市立山の手南小学校
- プログラム:
 - 13:30 ~ 14:15 (45min) 公開授業① (授業者:佐野教諭[4年生])
身近なバスと私たちの暮らし
 - 14:20 ~ 15:05 (45min) 公開授業② (授業者:栗原教諭[6年生])
暮らしの中の政治～市電から札幌市の政治がみえる～
 - 15:20~16:00 (40min) 公開授業 意見交換会
「交通環境学習の方向性～環境意識や公共の精神の醸成を目的として～」
 - 16:10 ~ 17:00 (50min) パネルディスカッション
「札幌らしい交通環境学習～学習教材としての「交通」とは～」
【コーディネーター】新保 元康氏(札幌市立西小学校長)
 - 【パネリスト】
高野 伸栄氏(北海道大学大学院工学院准教授)
臼井 誠信氏(前アドバコム代表取締役)
服部 彰治氏(札幌大通まちづくり株式会社取締役総務部長)
新津 順一(札幌市市民まちづくり局総合交通計画部公共交通担当部長)
- アンケート結果
 - Q.公開授業の内容はいかがでしたか?
やや参考に 14.7%
参考になった 85.3%
 - Q.「交通」を題材とした授業を実践してみようと思えましたか?
実践しようと思った 95.6%
既に実践したことがあった 4.2%



こども環境情報誌「エコチル」での公共交通の作文コンクールの実施

- 札幌市では、「札幌らしい交通環境学習」を、将来的に、札幌市内の全小学校で実施することを見据え、平成23年度から活動を展開。
- 平成24年度からこども環境情報誌「エコチル」によるMMを展開。従来、児童へアプローチを行うMMは行政や教育委員会が主導となることが多いが、本取り組みは民間主導で実施されたもの。



*エコチルでの紙面掲載・募集:
2012年8月号(8月20日発行)掲載[応募数/107作品]
2013年8月号(8月20日発行)掲載[応募数/183作品]

エコチルとは
●発行:(株)アドバコムが2006年にスタート
●札幌市内201校の小学校と児童会館で毎月配布(発行部数:10万部)
●仕様:タブロイド判(全4色、8~20ページ立て)
●内容:環境についての授業や、各学校で取り組まれている環境教育の紹介等、こども達が楽しく環境活動をするような紙面作りを行う。

プロジェクトの検討・推進体制



本プロジェクトの成果と今後の展開

【本プロジェクトの成果】

- 1・3~6年生の交通に関する指導案を立案
- 教諭が主体となった授業の実施
- フォーラム等を通じ、認知度も徐々に増加
- 協働体制の構築

【今後の展開】

- 都市交通に関するデータ等のコンテンツ提供の充実
- 札幌市内全域の小学校への広がりを見据え小学3年生用の副読本を作成
- 授業実施校の拡大
- 「札幌らしい交通環境学習フォーラム2014」を開催(8/26)